

注 記

(1)	・建物本体・植栽部分等を工事対象とし、解体後は埋戻し整地すること。
(2)	・植栽（樹木）は抜根まで行い、庭石も撤去・処分とする。また、植栽（樹木）は敷地内の全てを撤去・処分すること。 法面崩壊の恐れのあるヶ所は伐採までとする。
(3)	・側溝及び隣接道路のアスファルト舗装の解体撤去は、工事対象外とする。
(4)	・敷地内・建物内の家具及びゴミは、全て撤去・処分すること。
(5)	・屋根上の設置物（アンテナ等）は、全て撤去・処分すること。
(6)	・廃棄物の解体体積△は、分別すること。
(7)	・発生材の大きさは、１５０mm×１５０mm程度の大きさにすること。
(8)	・地盤面下1.0m以内にある工作物及び残材は、全て撤去・処分すること。
(9)	・上水道は、図示箇所にて止栓し、現地の止栓位置を明示すること。メーター及びメーターボックスは現況のまま。
(11)	・下水道は図示箇所にて止栓し、現地の止栓場所を明示すること。
(11)	・整地後の場内排水は、既存道路側溝に排水できるように、適宜素掘り側溝を設けること。

解体工事特記事項

関係法令の順守	・本工事に際しては、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』・『騒音規制法』等を順守すること。
立会及び手続	・関係官庁等の立会いを必要とするものは、事前に係員と打合せの上、手続を行うこと。また、立会い検査を受けた後は、速やかに結果を係員に報告すること。（諸手続き及び検査に要する費用は、施工者の負担とする。）
疑義	・疑義の解釈は、係員と十分協議の上、その指示に従うこと。
諸費用	・工事完了までの諸費用は、全て本工事に含むものとする。
原形回復	・本工事により汚損を生じた場合は、施工者負担にて原形に復旧するものとする。
施工計画	・施工者は工事着工前に工程表を提出し、係員の承諾を受けること。また、必要に応じて施工計画書及び施工要領書も提出すること。
日報等	・施工者は、工事完了時に工事日報を係員に提出すること。また、工事着工前から完了までの工事写真も合わせて提出すること。（部数撮影場所・枚数は係員の指示による）
安全対策	・仮設足場・養生シート等は、強風に十分耐えられるものにする。こと。 ・発生材の場内での焼却は禁止するとともに、火気に十分注意すること。
近隣対策	・騒音・振動には十分に配慮し、粉塵による公害を起こさないように散水を十分に行い、排水等の処理を確実に行うこと。 ・工事期間中は、車両の出入りの整備のため、交番誘導員を１名以上常駐させること。
共通	・九州電力柱・ＮＴＴ柱・それに係る引込線・街灯の撤去は、九州電力・ＮＴＴ及び役場と協議の上、手続を行うこと。 ・解体工事は、給水設備工事・ガス設備工事・九州電力・ＮＴＴ引込線の撤去工事の完了後に着手すること。 ・必要に応じて、作業員用の仮設更衣（共用型）を設置すること。 ・竣工検査に際しては、検査員の指定した場所を掘削することもあるため、バックホウを準備すること。 ・車道や歩道の占用については、道路管理者と所轄警察とで協議すること。

①	①. 現場代理人	現場代理人とは、工事請負規約書に規定する現場代理人という。	②. 施工計画書	(1) 施工計画書 着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承諾を受ける。 なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。 工事概要 ア. 工事名称 イ. 工事場所 ウ. 工事期間 エ. 工事内容 オ. その他 管理組織 安全衛生管理及び飛散防止対策 使用用具、器具類、材料及び調合 工事の流れ 仮設計画（足場、養生） 作業要領（作業計画図面を含む。） 確認、検査方法 工事工程表 その他必要事項 (2) 官公署その他への手続き等 一般建築工事の手続きのほか、地方公共団体が定めている手続を行う。																					
ア	②. 作業管理者	石綿作業主任者の資格を有する作業管理者とする。  改（ 9 . 1 . 2 ）	②	(1) 建物内部で除去作業を行う場合は開閉部位（出入口、換気孔、窓等）は閉とし、ガラスの破損面等で閉となっている部分を、養生シート等で塞ぐものとする。 (2) 建物外周部で除去作業を行う場合は、当該部分を養生シート等で囲う。 (3) 施工区画入口に、「アスベスト含有成形板除去中、関係者以外の立ち入り禁止」を、作業場所の出入口に呼吸用保護具着用を指示する。																					
ス	③. 除去処理作業管理者の選任	工事請負者は、除去作業管理者を選任し、除去工事現場に常駐させること。 除去作業管理者は、除去作業全般を統括すること。	ア	(1) アスベスト含有成形板の除去 ( ) 除去は、アスベストを含まない内装材及び外部建具等の撤去にさきがけて行う。 ( ) 除去は可能な限り破壊又は破断を伴わない方法で行うものとし、原則として、「手ばらし」とする。 ( ) 除去作業中は、原則として散水その他により、アスベスト含有成形板を常に湿潤な状態として作業を行う。																					
ベ	4. 除去処理作業従事者の資格	除去作業従事者は、下記のあける事前教育及び健康診断を受けた者で工事請負者の発行する作業手帳を有し、除去作業管理者の指示を受け作業を行うこと。	ス	(2) アスベスト含有成形板の集積、運搬等 ( ) 除去したアスベスト含有成形板の集積及び積み込みに当たっては、高所より投下しない等のほか、粉じんの飛散防止に努める。 ( ) 細かく粉砕されたアスベスト含有成形板は、湿潤化の上、丈夫なビニル袋に入れる等、飛散防止の措置を講じる。																					
ト		<table><tr><th>科目</th><th>範囲</th><th>時間</th></tr><tr><td>石綿等の有害性</td><td>石綿の性状、石綿による疾病の病理及び病状</td><td>0.5時間</td></tr><tr><td>石綿等の使用状況</td><td>石綿を含有する製品の種類及び用途、事前調査の方法</td><td>1時間</td></tr><tr><td>石綿等の粉じんの発散を抑制するた</td><td>建築物又は工作物の解体等の作業の方法、湿潤化の方法</td><td>1時間</td></tr><tr><td>めの処置</td><td>作業場所の隔離の方法、その他石綿等の粉じんの発散を抑制する為の処置についての必要な事項</td><td></td></tr><tr><td>保護器具の使用状況</td><td>保護具の種類、性能、使用方法及び注意事項</td><td>0.5時間</td></tr><tr><td>その他石綿等のばく露の防止に関し必要な事項</td><td>労働安全衛生法（昭和47年法律57号）、労働安全衛生法施工令（昭和47年政令第318号）、労働安全衛生規則（昭和47年労働省令第32号）及び石綿障害予防規則中の関係条項、石綿等による健康障害を防止するため当該関係条項、石綿等による健康障害を防止するため当該業務に付いて必要な事項</td><td>1時間</td></tr></table>	科目	範囲	時間	石綿等の有害性	石綿の性状、石綿による疾病の病理及び病状	0.5時間	石綿等の使用状況	石綿を含有する製品の種類及び用途、事前調査の方法	1時間	石綿等の粉じんの発散を抑制するた	建築物又は工作物の解体等の作業の方法、湿潤化の方法	1時間	めの処置	作業場所の隔離の方法、その他石綿等の粉じんの発散を抑制する為の処置についての必要な事項		保護器具の使用状況	保護具の種類、性能、使用方法及び注意事項	0.5時間	その他石綿等のばく露の防止に関し必要な事項	労働安全衛生法（昭和47年法律57号）、労働安全衛生法施工令（昭和47年政令第318号）、労働安全衛生規則（昭和47年労働省令第32号）及び石綿障害予防規則中の関係条項、石綿等による健康障害を防止するため当該関係条項、石綿等による健康障害を防止するため当該業務に付いて必要な事項	1時間	有	( ) 除去したアスベスト含有成形板を運搬するまでの間、現場内に保管する場合は、一定の保管場所を定め、一般の内装材と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止の措置を講じる。また、保管場所には、アスベスト含有成形板の保管場所であることの表示を行う。
科目	範囲	時間																							
石綿等の有害性	石綿の性状、石綿による疾病の病理及び病状	0.5時間																							
石綿等の使用状況	石綿を含有する製品の種類及び用途、事前調査の方法	1時間																							
石綿等の粉じんの発散を抑制するた	建築物又は工作物の解体等の作業の方法、湿潤化の方法	1時間																							
めの処置	作業場所の隔離の方法、その他石綿等の粉じんの発散を抑制する為の処置についての必要な事項																								
保護器具の使用状況	保護具の種類、性能、使用方法及び注意事項	0.5時間																							
その他石綿等のばく露の防止に関し必要な事項	労働安全衛生法（昭和47年法律57号）、労働安全衛生法施工令（昭和47年政令第318号）、労働安全衛生規則（昭和47年労働省令第32号）及び石綿障害予防規則中の関係条項、石綿等による健康障害を防止するため当該関係条項、石綿等による健康障害を防止するため当該業務に付いて必要な事項	1時間																							
建		除去作業に従事する作業者は事前に、一般健康診断（石綿を取り扱う場合は6ヶ月ごと）・じん肺健康診断・アスベストに関する特化則による健康診断の実施については、下記の記載の場合は除くことができる。 ア. じん肺健康診断 ・除去処理作業に従事する期間において、3年以内に診断を実施した者とする。 イ. 石綿障害予防規則による健康診断 ・除去処理作業に従事する期間において、6ヶ月ごとに診断を実施した者とする。	成	( ) アスベスト含有成形板の運搬に当たっては、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い飛散防止に努める。																					
材			形	( ) アスベスト含有成形板の撤去、集積、積み込み及び保管等の処理が完了した場合は、速やかに監督職員に報告し、確実に処理されたことの確認を受ける。																					
除			板	(3) 除去物の処分等 ( ) アスベスト含有成形板は、関係法等に従い適切に処分する。 ( ) 撤去されたアスベスト含有成形板の処分が完了した場合は、マニフェストを監督職員に提出し、処分が確実に行われたことの確認を受ける。 なお、マニフェストは、アスベスト含有成形板であることを明示する。																					
去			の	(1) 除去作業が終了後、アスベスト含有成形板の破片、破断粉および作業衣等に付着した粉じんが残存しないように、真空掃除機等により、清掃および片付けを十分に行う。																					
工			去	(2) 監督職員の立会いのうえ、除去が十分に行われたことを、目視により検査を行う。																					
事			工																						
現	⑤. 安全対策及び協議	安全衛生に関する管理者は、現場代理人が選任者になり、関係法令等に従ってこれを行う。また着工に先立って工期・工事方法及び安全の為の立入禁止区域の設定等について当該施設関係者、監督員と十分に協議し施工計画に盛り込むこと。	事																						
場																									
管		施工の確認及び報告 ( 1 ) アスベスト管理地区を設定し、養生が完了した段階。 ( 2 ) アスベスト含有吹付け材の除去作業が完了した段階。 ( 3 ) アスベスト粉じん濃度の測定整備が完了した段階。 ( 4 ) 内部足場を取り外す前の段階。 ( 5 ) その他監督員により指示があった時。	⑤	(1) 施工記録報告書を作成し、監督職員に提出する。 (2) 施工記録報告書は、7.7により作成する。																					
理		アスベスト粉じん濃度の測定 ( 1 ) 工事請負者は、除去処理工事の工事着工前、工事中及び除去完了後の作業所内周辺環境及び監督員が指示する箇所において空気中のアスベスト濃度測定を行うこと。 ( 2 ) 測定方法はJIS K 3850-1（空気中の繊維状粒子測定方法-第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法）による。 ( 3 ) 測定は、厚生労働省・都道府県基準局に登録されている作業測定機関又は、これと同等の技術を有するものに委託し、その測定機関が証明する測定結果を監督員に提出する。	6																						
等	6. 濃度の測定																								
②	1. 施工調査	施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。 処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。 調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。 ( ) アスベスト含有成形板使用部位の確認 ( ) アスベスト含有成形板の種別、厚さ等の確認 ( ) アスベスト含有成形板使用数量の確認 ( ) 施工範囲と工事管理区分の確認 ( ) 廃棄物等の搬出方法について																							

	工事名称	みやこ町役場豊津支所解体工事	事務所登録第（1－20053）号 古森総合建設 一級建築士大臣登録282373号 代表者 古森 智博 福岡県京都市みやこ町豊津8-4 Ⅱ0930-33-2904	承認		設計	
	図面名称	解体工事特記事項・アスベスト特記事項		図面No		A - 01	